



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間共1100円



信仰の恵みを見直す旅に招かれて

日本カトリック司教団「信仰年」メッセージ

教皇ベネディクト十六世が呼びかけた「信仰年」(十月十一日～来年十二月二十四日)が始まった。日本カトリック司教団は、信仰年開始にあたり、十月十一日付けでメッセージ「信仰の恵みを見直す旅に招かれて」を発表した。また信仰年を迎えるにあたって、「第二バチカン公会議の目的の再確認」や「新しい福音宣教に挑むため」など日本の教会の課題を示し、この信仰の恵みを見直す機会を有意義に過ごすよう促している。以下に司教団メッセージを掲載する。

キリストにおける兄弟姉妹の皆さん
教皇ベネディクト十六世の自発教令『信仰の門』の呼びかけにこたえて、わたしたちは全世界のカトリック教会とともに、今日から「信仰年」の歩みを始めます。



現代の日本の社会には、少子高齢化、経済の低迷、家族関係や人間関係の問題、いじめ、自死、原発問題など、さまざまな困難があり、多くの人が悩みや苦しみを抱えて生きています。ここには、生きる意味と救いを求める声なき叫びが満ちているとも言えます。その中で、信仰という尊いたまものを受けたわたしたちは、「主のもとに」とどまり、主とともに生きようとする決断(『信仰の門』10)のうちに、自らの言葉と行いで信仰をあかしするように招かれています。

わたしは、わたしたち自身ができるように信仰の喜びを生きているか、信仰から来る希望と愛をいいただいているかを問い直しましょう。昨年二〇一一年三月十一日の東日本大震災と福島第一原発事故は、多くの犠牲者・被災者・避難者を生み出しました。

新風

小教区に分かち合いから信仰の危機を感じている私達は、その打開策を探るために今回の教区評議会を開催しました。教区評議会に先立って「どういうことを信仰の危機として捉えているか」を小教区にアンケートを致しました。今回は司教様の分析の中から幾つかをご紹介します。

教区評議会を振り返って

①高齢化が進み教会の運営自体が難しい。②教会離れが著しく中高年以下のミサ参加が少なくない。③共同体意識が薄れ信徒間の意思の疎通が図れない。④地域、学校が優先され教会学校の開催が難しい。⑤共働きの多くなるとミサに行かない。⑥公会議の教えと「ナイス1」の精神はどこに。⑦受洗後の教理不足でミサと秘跡への無理解が

奄美地区では「カトリック信仰養成講座」を行い将来のカテキスタ養成を図りたいとしています。また北薩地区ではこの信仰年に際して「殉教者の信仰を学ぶ巡礼」を計画し、信仰養成講座も始められると聞いています。具体的な打開策は主の恵みを受けて確実に進んでいるのですね。祈りの中に。

みられる。⑧教会に来て温かみを感じられない。⑨次回と同じアンケートの中から、その打開策を探りたいと思います。その打開策の一つに司教様は「子供聖書学校」を提案なさいました。できれば合同の夏のキャンプを利用するという事です。何とか皆様の祈りとご協力を得て実現して参りましょう。

ザビエル書院の窓



晴佐久昌英神父著
十字を切る
定価 千三百円十税
女子パウロ会

最短最強の祈りについてのすすめと解説。人はどんなときに十字を切るのか…この本を読むとこの短い祈りをさらに深めることができる。

仰の道を歩む者です。互いに支え合い、励まし合いながら、謙虚さと勇気をもって新たに「信仰の門」に入っていくましよう。

「道であり真理であり命である」(ヨハネ14・6) 主イエスは「信仰の創始者・完成者」(ヘブライ12・2)であり、わたしたちの信仰の最高の導き手です。主イエスに従い、希望をもって信仰の旅路を共に歩んでまいりましよう。聖母マリアの取り次ぎを

教区評の声を具体化 本土地区司祭評議会

十月二日(火) 離島に居住する司祭評議員を除くメンバーによる「本土地区司祭評議会」が教区本部で開催された。急遽開催が決まったこの会の目的は、教区評議会を受けて今後の具体的な方針を打ち出すこと。午後二時

このほか各小教区における信仰年の行事や勉強会を教区報等で分かち合い、教区全体の盛り上げを図ることとした。

11月18日(日)

福者レオ七右衛門殉教祭

第一部 京泊教会跡地で祈り

集合時間 13時
集合場所 現地(薩摩川内市港町6232)
※12時30分までに麓の駐車場にいられますと案内係が同行いたします。

第二部 ミサ

時間 15時 場所 川内教会(薩摩川内市若松町4-7)
※ミサ後はレオの殉教地・平佐を訪問します。

文芸

俳句

鹿兒島市 徳永ノブ子
主の恵み蜜吸う小さき秋の蝶
鹿兒島純心 川上 和
音もなく舞い来る一葉秋の旅
愛光園 春山マリ子
句作りに夢載せ歌う夏夕べ
出水市 沖 弘子
知床へつづく道の辺ななかもど
霧島市 政 ノブ子
朝のミサ見送る稲田黄金色

短歌

鹿兒島純心 川上 和
さわやかな今日の一日を祭壇に平和の願い

讃歌にのせて

大笠利教会 稲 牛憲
一人繰るロザリオの祈り三十分軽き忍耐こ
れも祈りぞ
愛光園 春山マリ子
年老いた私と叔母の最期みる仏と神の優し
きまなざし
鴨池教会 前田 儀子
色彩は魂の即興と云ひしクレアの絵の色は
心の音色ひびかす
聖園老人ホーム 倉津 フミ
数多なる心の悩み引き受けて笑顔頼もし聖
園の母なり
奄美市 林 常広
公園の広き遊び場芝生上ステージに立ち我
礼をする

十一月に百回目の集いを開催

みことばを祈る集い

鹿兒島市内には六つの教会があります。そのうちの四つの教会から有志が集まり、二〇〇四年五月に始められました。毎月一回の集いですが、夏も冬も休みなしで続けてきた結果、今年の十一月に百回目の開催を迎えます。

言葉を使われたのは、神父様の中に次のような思いがあったからです。ザベリオ宣教会の神父様は鹿屋教会を担当されていた四年の間に志布志市にある「大慈寺」で週に一度、座禅を組まれていました。これは「座禅について学びたかったから」というのではなく、「座禅を体験したい」という思いからだったそうです。そして、この「体験」については、カトリックでも無理だけでなくこうすることが必要と感じたそうです。そして神父の思いは、私たちの勉強会を祈りという段階に引き上げることになったのです。新しい集い開催にあたりレナト神父が言われた言葉が印象的でした。

二〇〇三年十月のことです。当時鹿屋教会で働かされていたフイリピニ・レナト神父(現高松教区・桜町教会主任司祭)が講座「ルカ福音書を味わう」を開講されたことに端を発するので、そして半年間にわたった同講座の終了に際して、受講者たちから「まだ続けて欲しい」という強い要望が起りました。これに対し、レナト神父は「キリスト教を体験できる祈りとしてやってみよう」とこたえて下さいました。

「この集いが神父はいなくても続けられたら本物。神父がいなくなったら終わってしまうのでは偽りのもの」

そんな言葉に守られてか、レナト神父が鹿兒島を去られた後でも神父の書面による指導ですつと続けられてきたのです。この十一月に百回目の開催となる集いの名前は「みことばを祈る集い」で、「レクチオ・デイヴィナ」(聖なる読書)がその根元にある。信仰生活を通じて難しいことの一つとして「人を赦す」ということが挙げられます。確かに、私たちは日々、主の祈りで「人を赦します」と唱えます。しかし、心から誰かを赦せない自分に気付くとき、祈りが偽りになっていくのではなにか、と苦しまれる方も多いことでしょう。

実は、主の祈りの原文に於ける「私たちの罪をお赦しください」「私たちも人を赦します」という言葉には、日本語では表現しきれない微妙な意味合いが込め

会員及び使節団参加者募集

ジエズ教会と「姉妹盟約を結ぶ会」

ザベリエルの聖腕を安置しているローマのジエズ教会との姉妹教会盟約締結を進めているザベリエル教会(主任司祭P・アン神父)では、教区巡礼委員会と協力して「姉妹盟約を結ぶ会」を発足させることにし、現在会員募集を行っている。関係者によると各小教区からの一、二人の会員で構成されるのが望ましいとされている。

新しいマリア像

加世田教会

加世田教会(ダウン神父主任司祭)では十月十四日(日)、「信仰年」の始まりに合わせて設置準備を進めている新しいマリア像の祝福式がありました。新しいご像はベトナムから空輸されてきたこれからの教会の祝福と信徒の願いの取り次ぎ手として相応しい雰囲気を全身から発しています。十月の行事では「ロザリオの祈り」を月・水・金曜日は教会で、火・木曜日は各班ごとに信徒宅でおさげしました。また十月二十八日(日)には教会敷地内でマリア行列を実施することになっています。(報告・川口 茂)



ていた新しいマリア像のご祝福式がありました。新しいご像はベトナムから空輸されてきたこれからの教会の祝福と信徒の願いの取り次ぎ手として相応しい雰囲気

私はあなたを赦します

スーさん(鈴木助祭)のやさしいみことば

「誰かを赦してしまいますから、私の罪も赦してください」というイメージを受けますが、原文では「誰かを赦そうとしている」また「七」という数字には、物事が成就する、という意味合いがあります。創世記に於いて第七の日に神様が「御自分の仕事を完成された」と(2・2)という記

述が、その代表例として挙げられます。では、私たちが誰かを七の七十倍までも赦そうとしたところで本当にその人を心から赦せるでしょうか。表面上は赦したつもりになっ

キッペス神父の黙想会

日時：12月1日(土)10時~2日(日)16時
場所：マリア山荘(霧島市溝辺町麓3616-4 Tel.0995-58-2994)
参加費：10,000円(宿泊費、食費込)
申込：福沢智子 Tel・Fax0993(78)4945
※お気軽にお問い合わせください。

でしようか。人を赦す…それは人間の力だけでできるものではありません。神様からの恵みがなければ決して心から人を赦すことはできません。もし真に人を赦そうと思ふのなら、その願いが成就するように、つまり、神様から人を赦す恵みを頂けるように、七の七十倍までも神様に祈ることが求められるのです。それこそが主の祈りに於ける「赦し」なのです。



遺徳を偲んでカタリナ祭

信仰の模範にと種子島教会の信者たち

十月十四日(日)種子島教会では、一六三三年信仰を棄てなかったという理由で種子島に流された島津光久の祖母野永俊



「種子島での囚われの日々は、私たちの想像をはるかに超える苦しみや困難があつたろうにと、カタリナ永俊の墓標を掃除しながら、当時の苦勞に思いを馳せました。彼女の強い信仰を支え続けたものは何だつたのでしょうか?どんな迫害にも負けない、ゆるぎない信仰を育んだ島での半生でした。彼女の左の腕には、いつも数珠に似たロザ

リオがかかっています。沈んでいく夕陽を眺めながら、彼女の口からは、主に護られていた感謝の祈りで溢れていたことでしょう。彼女の人生は、主の平安の内にお過ごしされたものと確信しています。奇しくも、今

青年たち主催で 一宇治城へ徒歩巡礼

青年たちの呼びかけで九月三十日(日)伊集院一宇治城跡への徒歩巡礼が実施された。

伊集院一宇治城はザビエルが鹿児島に到着した当時の薩摩の領主・島津貴久が居を構えていた場所。鹿児島での宣教の許可を得るためにザビエルは九月二十九日にそこに向き、貴久と面

煉獄の靈魂のために祈る

司教執務室だより

十一月は死者の月。死者のために祈りするのは、煉獄の靈魂のために祈りすることだとしたら、今月は、煉獄の靈魂のために祈る月と言えます。煉獄は清めの教会とも呼ばれ、私たちの善行は煉獄での償いを免滅するので、とくに今月は、信者にとって、煉獄の靈魂を解放するために働く月とも言えます。

ところで、免償、つまり罪の償いの免除は神様の愛の心遣いであり、十字架の贖いの業にその根拠があります。その無尽蔵の功徳によって、二千年前の出来事が、今の私たちに救いの道を開いてくれたのでした。

子どもの頃「煉獄の火は地獄の火と同じぐらい熱いそう」と聞かされたものです。しかし、煉獄には火が燃えているわけではなく、天国に行きたいと熱望しながら、それがかなわない苦しみの大きさを比喩的に教えようとしたのだと思います。そう考えると、イエス様の十字架によって救いをいただいている私たちが、苦しむ煉獄の靈魂のために、イエス様に

準じた免償の業を行うことが求められます。これを「聖徒の交わり」と言います。



ひたすらその時を待つことしかできない煉獄の靈魂には肉親も大勢いると思われまふ。彼らが、私たちの祈りや善行によって、神様のもとに「アレルヤ!」と歓喜しながら、御父の懐に迎えられる姿を想像するだけで、その時が早まりますようにと思わず力が入ります。

煉獄の靈魂のために祈るとき、自分の心を傷つけた旅先の息子を案じ、祈りながら帰りを待ち続けたと思われる父親の姿(ルカ十五・20)を思うことは、免償を理解するために役に立つと思われまふ。今月は、地上にいるお互いのためばかりでなく、とくに、煉獄で苦しんでいる身近な靈魂の救いのために祈り、働くことで洗礼の時にいただいた祭司職を果たしていただきたいと思ひます。

- 注1...カトリック教会の教え一五〇頁
- 注2...同一五九頁
- 注3...同一二二頁

日、私たちはミサの中で信仰年開始の宣言をいたしました。カタリナ永俊の信仰に倣い、私たちも日々の生活の中で主の平安に感謝しながら生きてゆきたいと心を新たにしました。



会したのである。

ザビエル教会から伊集院までの二十四キロに及ぶ徒歩巡礼に挑戦したのは、九人。その中には、郡山司教や古木和三(八十四歳・玉里教会)さんの姿もあった。午前七時に「東日本大震災の被災者のことを忘れな」と祈りをささげザビエル教会を出発した一行は、途中五カ所の休憩所でロザリオの祈りを唱えながら一宇治城を目指し、到着後はミサをささげて散会した。

信仰年学習会開始

北薩地区教会

北薩地区教会では、信仰年が始まったのを機会に「信仰養成講座」と「殉教者の信仰を学ぶ巡礼」を企画している。五つのテーマについて同じ内容で二回ずつ開かれる養成講座のスケジュールは次の通り。

- (1) 信仰生活における祈り
- (2) 11月25日大口
- (3) 12月9日川内
- (4) 信仰と教会
- (5) 1月27日出水
- (6) 2月

聖体の永久礼拝

「信仰年」開始を記念してザビエル教会で十月十二日(金)夜から翌十三日(土)の朝まで「聖体の永久礼拝」が実施され、多くの信徒が祈りをささげた。この礼拝に協力してくれたのは、教区の祈りのグループ「愛の泉」のメンバーたち。メンバーたちの様々な工夫もあって、長時間にわたる祈りの時間も心地よいものだったという。参列者の中には「徹夜で祈る」ことを聞きつけ、県外から駆けつけた人々もあつた。

+KABAYAN SEKSIYON+ "MANLIKHA NG LANGIT AT LUPA"

Nang simulang likhain ng Diyos ang lupa at ang langit...Ang langit ay naghahayag na ang Diyos ay dakila! Malinaw na nagssasad kung ano ang kanyang gawa!(Gen 1:1). Si Kristo ang panganay sa labat ng nilikha. Sapagkat ang labat ng nasa langit at nasa lupa...ay pawing nilikha ng Diyos sa pamamagitan niya at para sa kanyaa...sa kanya nasasailay ang kaayusang ng labat ng bagay. (Col 1:15-17).

PANIMULA
Lahat tayo'y nagtatanong paminsan-minsan: "Saan ba nagmula ang labat? Ang tugon ng Salmista: "Sa utos ng Panginoon, nalikha ang langit, ang araw, ang bawat talang maririkt... ang buong daigdig sa kanyang salita ay pawing nayari, lumit, aw na bigla"(Sal 33:6,9). Naitatanong natin: "Ano ang layunin ng labat ng ito? Ano ang kahulugan ng ating buhay, at ng kamatayan?" Kinakatigan ng doktrinang Kristiyano na "ang pinakaganap na tugon sa mga katanungang ito ay matatagpuan lamang sa Diyos, na lumikha sa atin ayon sa Kanyang larawan...at ang tugong ito ay nalahad sa pagpapahayag ni Kristong Kanyang anak na naggag kaisa natin".

KALALAGYAN
Ang larawang agad maisip ng Pilipino tungkol sa Diyos ay ang pagiging Manlikha. Marami sa mga Pilipinong alam at naglalarawan ng pagkamalikhain ng Diyos. Isang maikling kuwento ang nagsasalaysay kung paanong matapos hubugin ng Diyos ang mga iba pang bahagi ng daigdig. Pinagpag Niya ang putik sa kanyang mga kamay at kaya lumitaw ang 7,141 pulo ng Pilipinas. Ang isa pang maikling kuwento ay nakatutuwang naglalarawan kung paanong matapos "ihurno" ng Diyos ang mga itim at mga putting lahi. Ang Diyos ay nakabuo ng isang ganap na tao, ang "kayumangging Pilipino". Ang mga ito at ang iba pang mga Pilipinong alam tungkol sa paglikha ay nagpapahiwatig kung paanong taal sa ating kulturang Pilipino ang Diyos na Manlikha.

Ngunit ngayon ang paniniwala ng mga Pilipinong Katoliko sa Diyos bilang Manlikha ng langit at lupa ay nahaharap sa mga bagong hamon. Halimbawa, papaanong ang salaysay ng paglikha sa Genesis sa loob ng anim na araw ay maaring ipakipagkasundo sa makabagong paliwanag ng agham tungkol sa teoriya ng ebolusyon? O kaya ay kung ang Diyos pala ay lumikha at nagtagayud sa lahat, samakatuwid ay, bahala na dahil ang lahat ay nagpapasayahang na O kaya, kung nilikha ng Diyos ang daigdig sesimula pa ng panahon, ano ang kinalaman nito sa mga kapalaran at suliranin natin ngayon? Ang ganitong mga suliranin ay nagpapahayag ng matinding pangangailangan para sa mas maayos na pang-unawa kung ano ang ibig ipakahulugan ng Kredo: 1) sa pagpapahayag sa Diyos bilang Manlikha at sa pagbibigay-diin sa kanyang mapanlikhang pagkilos; 2) sa paglalarawan sa kanyang nilikha na "langit at lupa"; at 3) sa pagpapanulakang hindi ito isang bagay na mapatutunayan ng paliwanag ng agham kundi isang pangunahing paninindigan sa ating personal na kilos: pagsampalataya bilang mga Kristiyano.

Katekismo Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orloff)

11月の会と催し

1日(木)	諸聖人
2日(金)	死者の日
3日(土)	カトリック唐湊墓地ミサ・9時30分
4日(日)	丸野神父と読む「ヨハネによる福音書」・教区本部・16時
6日(火)	年間第三十一主日
9日(金)	本土地区コンベンツス・教区本部・14時
10日(土)	ラテラン教会の献堂
11日(日)	メニヒ神父霊名(テヨドル)
16日(金)	柳本繁春神父霊名(聖レオ一世教皇)
17日(土)	青年会学習会・教区本部・19時
18日(日)	宣教学校・教区本部・13時30分
19日(月)	年間第三十三主日
20日(火)	福者レオ七右衛門殉教祭・京泊教会跡地及び川内教会・13時
23日(金)	聖書週間始まる・25日まで
25日(日)	レズンプートル会例会
27日(火)	ホリスティック聖書講座「マタイ福音書九章あわれみについて」・ザビエル教会集会所・10時・五百円
28日(水)	長崎管区会議・20日まで
29日(木)	三木巖神父命日(二〇〇〇年)
30日(金)	奄美地区例会
31日(土)	シドゥッチ祭・屋久島教会
12月1日(日)	王であるキリスト
12月2日(月)	紫原教会堅信式・9時
12月3日(火)	パードレピオの集い・ザビエル教会・12時30分
12月4日(水)	オリブの会・教区本部・14時
12月5日(木)	聖アンデレ使徒
12月6日(金)	聖フランシスコ・ザビエルの取り次ぎを願う(25日・12月3日)

1 全国教誨師大会

昨年、郡山司教さまから、鹿兒島教区における刑務所・教誨師の仕事に委任されました。それまで、十数年間、久保俊弘助祭が教誨師のお仕事を担当され、昨年、久保助祭は法務省から長年の勤続の功労を讃える表彰をお受けになりました。

今年、神戸であった第三十四回全国教誨師大会に参加させていただきました。大会の報告ならびに刑務所の教誨師の役割について、ご報告させていただきます。

法務省の教誨師は、全国教誨師連盟に加入している宗教者が任命されることになっており、総裁は浄土真宗の大谷光真師です。親鸞聖人（本願寺）の継承者です。この全国大会には、職員・役員を含め六百五十人が参加しました。鹿兒島からは、五人です。

鹿兒島の教誨師は、仏教、神道、キリスト教、天理教など宗教家の方々が、担当されておられます。毎年、クリスマス時期には、ザビエル教会のホールと谷山教会のホールを訪問し、演奏してくださっています。



刑務所に収容される受刑者の数は、社会の変化によって増減があります。

鹿兒島刑務所には、死刑囚はいません。

昨年、刑務所に行きましたとき、そこには法務大臣の名前が貼り出されています。彼は、旧社会党右派の江田三郎委員長代行の息子で、社会市民連合を結成したりベラリストです。民主党に属していましたが、彼が法務大臣であったときは、死刑執行がありました。その後には、行われたのです。死刑執行には、法務大臣のサインがいりますので（死刑執行数二〇〇七年一九、八年一十五、九年一七、十年一無し、十一年一三、二〇〇九年度世界統計死刑者数 中国の死刑者数一少なくとも二千

がちなようになってくるかもしれません。陪審員制度には工夫が必要のように思われます。

全国刑務所・教誨師大会に参加して

溝辺教会主任司祭

坂本 進

以上、イラン一三百八十八、イラク一六二、サウジアラビア一六〇、米国一五十二、日本一七、北朝鮮一不明、欧州一死刑廃止。

2 罪と赦し—山口県光市母子殺人事件とアーミッシュの赦し

今回の全国大会において、犯罪者の量刑のありかたが、問題に上がりました。この数年、犯罪者の量刑は重くなってきました。それは、数年前から導入された民間陪審員（裁判官）制度と関係があります。民間陪審員は、加害者側の人権や法的手続きについての知識がないまま、被害者側やマスコミなどの社会感情によって量刑決定を左右され

がちなようになってくるかもしれません。陪審員制度には工夫が必要のように思われます。

一九九九年に山口県光市で起こった母子殺人事件の犯人であった十八歳の少年に対し、最高裁は、無期刑を判決させたのですが、被害者側の父親が最高裁に上告し、二〇一二年二月に最高裁は、死刑宣告を確定させました。

今回の全国教誨師大会のテーマは、「きづこういのちの尊厳—人生を大切に生きる教誨—」でありました。それは、この数年、加害者への重刑が増えていることから、導き出されたテーマであったようです。

もちろん、犯罪は、罰せられねばなりません。ただし、同時に再犯がないように、更生させる道を開いておくことも大切ではないでしょうか。特に、宗教的視点、教誨師の視点から、それは大切なことのように思います。そこには、回心・更生していく機会の提供と赦しの時が、必要ではないでしょうか。

私は、光市母子殺人事件の死刑判決が出たとき、アメリカで二〇〇六年十月に発生したアーミッシュ（文明的な生活形態を否定する新教の一派）の子供たちが殺された事件に、親たちが犯人と犯人の両親を赦したことを、思い出しました。アーミッシュの小学校に、ラ

イフル銃を持って乱入した男があつたのです。アーミッシュに反感を持っていたこの男は、小学生の女児五人を殺害したのです。そのとき、男が二年生の子を殺そうとする、別の子が、「私を先に殺して、その子を助けてください」と言いました。そして、次の子を殺すときも、別の子が身代りを申し出たのです。五人の子供を殺したとき、警察と子供の親たちが現場に駆け付けました。犯人は、自決してしまいました。そのとき、子供の親たちは、犯人に「私たちは、あなたを赦していますよ。安心して下さい」と言ったのです。

殺された子供たちの合同葬儀のとき、犯人の両親が

招待されていました。そこで、犯人の両親に対し、殺された子供たちの親は、「私たちは、あなたの息子さんとご両親を赦していただきますから、安心して下さい」と、宣言しました。

このニュースは、全米のトップニュースとして、驚きをもって報道されました。キリスト教国であるアメリカであつても、このアーミッシュのように、キリストの愛と赦しを実践している人は、ほとんどいないか、あつてもほんの少しであつたからです。

これは、私たちの生き方にも通じます。問題を避けるため、問題のある人や問題のある事柄を排除しようとする方を選ぶか、あるいは、まず受け入れ、「共生」していきける道を選ぶか、今回の教誨師の大会で、考えさせられたことでした。

十月に開かれる、看護医療についてのナイチゲル学会においても、医療、看護・介護の現実を通して、「共生」の問題が討議される予定です。機会があれば、このことについて、また、ご報告したいと思っております。

過ちや失敗、それは、そのゆえに、裁き罰するとい

うところに、とどまってはなりません。更生（回心）し、新しく出発し直す機会が与えられなければならないのではないか。

私たち、カトリック信者は、過ちを犯した人、失敗した人に対し、やり直しの機会を与えていくでしょうか。

また、この大会で、話されたことに、ごみ（廃棄物）処理の問題がありました。私たちは、ごみ（廃棄物）や汚物の処理場を、自分が住む近くに、設置してもらいたくありません。しかし、どこかに処理場が設置されることは必要であることは、理解しているのです。

あなたは、どうなさいますか。自分の近くに設置されることは、困るので、排除・反対運動を推進しようとなさるでしょうか。あるいは、設置を受け入れ、できるだけの害の出ないように工夫を考え合うようにするでしょうか。

これは、私たちの生き方にも通じます。問題を避けるため、問題のある人や問題のある事柄を排除しようとする方を選ぶか、あるいは、まず受け入れ、「共生」していきける道を選ぶか、今回の教誨師の大会で、考えさせられたことでした。

十月に開かれる、看護医療についてのナイチゲル学会においても、医療、看護・介護の現実を通して、「共生」の問題が討議される予定です。機会があれば、このことについて、また、ご報告したいと思っております。

過ちや失敗、それは、そのゆえに、裁き罰するとい

神と出会う イエス・キリストと出会う 自分と出会う

カトリック通信講座

<全7講座>

T001キリスト教とは T002 聖書入門〔I〕 T003キリスト教入門
T004 神・発見の手引 T005 聖書入門〔II〕 T006 幸せな結婚
T007 生きること・死ぬこと
受講料：T001～T004 4500円 T005～T007 5000円

<お申込み方法>

郵便局に備え付けの振替用紙にご希望の講座名・講座番号（T001～T007）をご記入のうえ、受講料を下記にお振込みください。

振替口座番号 : 00170-2-84745
加入者名 : オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ・お申し込み>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel : 03-3322-7601 Fax : 03-3325-5322
URL : http://www.oriens.or.jp
携帯サイト : http://www.oriens.or.jp/mobile/
ご希望の方にはパンフレットをお送りいたします。

4週間にわたる日々の生活での霊操

—信仰年にあたって、

あなたの祈りを深めてみませんか—

11月13日（火）～12月11日（火）

場 所：ザビエル教会集会室

第一回：11月13日（火）午前10時

指 導：Sr.モニカ・エルハルド（レデンプトール宣教修道女会）

[参加の条件]

- 1.毎日少なくとも30分、可能ならば45分、個人的に自宅で祈ること（内容は指導による聖書の箇所、他の祈りの方法）
- 2.原則として、毎週の分かち合いの集会に出席すること
集会は毎週火曜日10時から。集会の内容は、①前週の祈りについての分かち合い ②新しい1週間の祈りについての説明

参加希望の方は下記まで電話で。

ザビエル教会事務室 ☎099 (222) 3408
Sr.モニカ ☎099 (253) 6658